

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和2年度（第61回） 松阪市美術展覧会 第3回運営委員会
2. 開 催 日 時	令和3年2月8日（月） 14時00分から16時00分
3. 開 催 場 所	松阪市殿町1315番地3 教育委員会事務局（第2分館） 2階 教育委員会室
4. 出席者氏名	（委員）◎福田光子、○垣本和美、福井幸恵、牧田研介、 山本静香、中西徹、立松隆司、織戸千尋、工藤俊朴 （◎委員長 ○委員長代理） （事務局）別紙のとおり
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	1名
7. 担 当	松阪市殿町1340番地1 松阪市事務局産業文化部文化課 担当者 : 山本 山下 電 話 0598-53-4397 F A X 0598-22-0003 e-mail bun.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- (1) 第61回松阪市美術展覧会について
- (2) 第62回松阪市美術展覧会開催について
- (3) その他

議事録要約

別紙

令和2年度 松阪市美術展覧会第3回運営委員会議事録（要約）

開催日 令和3年2月8日（月）午後2時00分～午後4時00分

会場 松阪市教育委員会事務局2階 教育委員会室

出席者 山本静香（日本画）、中西徹（洋画）、立松隆司（美術工芸）、織戸千尋（写真）、
工藤俊朴（書道）、福田光子（公募）、垣本和美（公募）、福井幸恵（公募）、牧田研介（公募）
産業文化部長：内山、文化課長：川村
文化振興主幹：山本、文化振興係：阪口、山下

欠席者 菅原好彦（彫塑）

1 開会

2 部長あいさつ

3 議題

(1) 第61回松阪市美術展覧会について

①松阪市美術展覧会 結果報告について

(事務局) 以下報告

1 ページ目

- ・今年度の美術展覧会の総出品数は、絵画部門 92 点、彫刻・工芸部門 47 点、写真部門 70 点、書道部門 56 点の計 265 点であり、昨年度と比較し 26 点少なかった。しかし、コロナウイルス感染症の影響がある中、事務局の予想以上にお出し頂けたと感じている。
- ・来場者数は、第1部 1,394 人、第2部 1,134 人の計 2,528 人で、こちらも昨年度に引き続いて 413 人の減数という結果になった。しかし、昨年度は第60回記念で伸びが大きかったのもあることから、例年来ていたでいる方等についてはお越し頂けたと感じている。
- ・今年度については審査会の方法として、はにわ館にて会期中にビデオで流した。ビデオは期間を通して 180 人の方に見て頂けた。
- ・高校生以下の出品数については昨年度同数の 14 点の応募であった。今後も引き続き PR をしていけない。

2 ページ目

- ・企業賞は第60回から新しく新設した賞であるが、こちらも引き続き企業賞を設けさせて頂き、4社から1部門1社ずつという形で賞を頂いた。こちらも好評であったので引き続きやっていきたい。
- ・入場者内訳としては、第1部、第2部ともに8日間ずつ開催を行い、来場者数は1ページで述べた通りであった。

3 ページ目

- ・入場者数の増減および出品者の年齢については、比較的初日にたくさん来ていただいているということが見受けられる。出品者は70代が一番多くなってきている。20代は特に変化がなし。彫刻・工芸部門も60代の出品者が5人増えている。写真や書道部門はともに60代の出品者が8人減っている状況。

4 ページ目

- ・出品者の増減としては、彫刻・工芸部門を除けば、昨年度から減少している。昨年度の出品者の内、部門別で約30%が令和2年度にはお出し頂けず、令和2年度の出品者のうち、新規の出品者が約12%であったと

いうことから、新しい方にも是非お出し頂く様に検討を進めて行かなくてはいけない。毎年の課題ではあるがまた検討していきたい。

- ・高校生以下の出品は、出品料を無料としていることから、ほぼ例年横ばいの数となっている。こちらも PR を進めていかなくてはいけないことが課題である。

5 ページ目～8 ページ目

- ・来場者のアンケートの結果では、コロナウイルスの関係などに触れた意見が多かった。

9 ページ～16 ページ目

- ・来場者アンケート分析結果について。

(各運営委員 意見確認)

1. R1、R2 というのはなんですか？
2. 写真部門より。四日市の市展では高校生以下の出品について、一般の方と同じように、大きい作品やパネル作品で出品すると経費がかかり、学生には出しにくいいため、A4 サイズか四つ切サイズ、額装やパネルに貼らずに写真のみの出品も受付をしている。入賞対象とは別となるが、そのため出品数が多く、審査員が感心する作品も多い。
3. 書道部門より。審査について、大きい作品の方が難しいので小さい作品より賞の対象になってくるなど難しい点が多々ある。
4. 書道部門より。他県では一般の部、高校生の部、中学生の部、小学生の部と分けている。また大きい作品はお金もかかってきたり、なかなか出せない。
5. 心配していたが、今年も開催してよかった。会場へ行っても密になっていなかったのが良かった。(複数の方が同じ意見)
6. 知り合いの高校生に聞くと、(作品に) お金がかげられない、また大人の大きな作品には敵わないということを知った。高校生のみで審査をすると出しやすいのではないか。
7. 審査会のビデオを見ている方が多く驚いた。ただ、各ギャラリーの入り口の所にお知らせで書いていた(パウチを)が、意外と目に入らなかったのも、はにわ館の通路の辺りに表示してもらったのもっと入ったのではないかと思う。ビデオの声もちょっと小さかった。
8. 絵画部門より。展示の際に絵画部門のギャラリーを入れて奥の壁面とパネルの間を今年は開けていたのが良かった。
9. コロナ禍の中で開催するという点に関して、何か苦情とかはあったのか。
10. 展示方法としては各部門よかったと思います。
11. 絵画部門より。以前、絵画というのは、洋画も日本画も水墨画もみんな同じではないのかと様子を見るといことで合併したが、日本画が段々段々少なくなっているため、日本画で入賞するのが少なくなってしまう。よって洋画と日本画と分けた方がいいのではないかと思う。審査も別々で。分けることで賞も入りやすくなる。
12. 絵画部門より。アンケートにも書いてあります様に、日本画と洋画の区別が分からない。
13. 絵画部門より。日本画以上に水墨画の方々が一緒に審査される中で一番厳しいのではないかという気はしている。なかなかそれを三つの部分に分けるとするのは難しい。

(事務局の返答)

1. 「令和」の略。
9. 特になかった。

②その他

(事務局)

- ・特に報告事項はなし。

(運営委員)

1. 先ほどの説明では入場者の減少について、去年は60周年だったためという説明だったが、コロナ禍の影響や例年よりは減少傾向ということは、どうやって捉えたらたらいいですか。
2. 展示で「正しく表示してほしい」というアンケートがあったことについて。
3. ダブル受賞について。「ダブル受賞もあります」と最初から書いておくと良い。
「まつさか特別賞」についてどのような賞なのか認識をはっきりさせておく。
4. 「まつさか特別賞」について投票期間が短い。

(事務局の返答)

1. 第59回(平成30年度)の実数として入場者数が2,334人だったこと。また、去年は60回記念で600人増えたという実績もあることから、その60回記念というのはとても大きな要因だったのではないかということ。今年コロナの状況ということから考えても、例年以上には入って頂いたと分析。
2. 従来、作品を搬入の際に、上下を確認をした上で間違えないように、出品票をその方向に貼るようにはしているが、それを日をおいて、審査を経て展示ということになった時点で、展示方向が誤っているということを出品者の方からご指摘を受けないと気づけなかったことがあった。お詫びの方を言わせて頂いたが、途中で直したという経緯が以前あった。
3. 「まつさか特別賞」を設定する際にダブルが起こりうると意見がでた。賞にすでに入っている人はもういない、はずすかということで議論を頂いた結果、ダブルになっても審査員は専門的などころから見てもらっているし、来場者の方が良いと評価するものは良いのではないかということで今の形をとっている。どういった意図の賞かわかりにくい、誤解を招くというのが確かにある。意味をはっきりさせていくということで、続けていきたいと思う。
4. 集計のことを考慮すると難しい。期間をはっきりお伝えするか、もう少し延ばすことができるか、次回考えたい。

(2) 第62回松阪市美術展覧会について

①開催日程および会場等について

(事務局) 以下報告

17ページ

- ・令和3年度(第62回)松阪市美術展覧会の開催案について

会場：松阪市の文化財センター(変更なし)

部門：第1部、第2部の2部門

第1部 絵画部門と彫刻・工芸部門

第2部 写真部門と書道部門

日程：文化財センターの会場の予約等につき、早めに決定をしたい

第1部 9月17・18日【搬入】～10月3日【会期終了】

第2部 10月8・9日【搬入】～10月24日【会期終了】

いずれも会期については8日間を見込んでいます(大体例年どおり)

② 開催要項について

19 ページ～22 ページ

- ・開催要項等の案について

様々な意見をお出し頂いたうえで、また来年度に向けての運営委員会等で最終決定をさせて頂く

作品の公募要項：創作した未発表のもの

各自部門別で一人一点

出品料は 500 円、ただし高校生の方については出品料は無料

作品規定：出品される方に対して少しでも分かりやすく書き示したい

褒賞：来場者投票賞「あなたが選ぶ！まつさか特別賞」

来年度は伝わるような書き方をすること

(運営委員)

- ・高校生の部としてひとつ賞を設けるのはどうか。

(事務局)

- ・他市の状況、開催状況等内容など情報収集したうえでご提案させて頂きたい。

③ 審査委員および運営委員について

(事務局)

23 ページ、24 ページ

審査委員について

松阪市美術展覧会審査委員設置要綱に基づき、今年度の運営委員(専門委員)に候補者の選出を行っていた
だいている。

運営委員について

松阪市美術展覧会運営委員会設置要綱に基づき、任期は委嘱のあった当該年度としている。
ただし再任は妨げない。

【専門委員】任期は1年とし、令和3年度は別途選出する。

【公募委員】原則任期は1年だが、専門委員の先生が1年交代をされることもあり、再任をお願いでき
る方には再任をお願いしたい。

(運営委員)

- ・異議なし

④ 夏休み子どもワークショップについて

(事務局) 以下報告

- ・今年度開催を予定していた企画は中止という判断をさせて頂いた。

内容：写真部門「T シャツを作ろう」

- ・密をなかなか避けるのが難しいということから中止としたが、来年度、今年度中止となった内容でご提案を
させて頂きたいと思っている。

4. 閉会